

書の立体感が魅力

第39回全国高校総合文
化祭(7月28日～8月1
日・滋賀県)の書道部門
で、未来に向かって飛び
立つ希望を込め、「翼を
ください」の歌詞を題材
にした作品を出品し、文
化連盟賞に輝いた。

中国産の紅星牌本画仙
紙(縦240センチ・幅90センチ)
に、柔らかな羊毛筆で
「翼」の一字を堂々と
大きく書き、歌詞は、さ
まざまな太さの線と柔ら
かな線を組み合わせ、詞

時のひと

を語りリズム感が感じら
れるよう、真っ白い用紙
に文字を配置した。4カ
月に、作品作りに立ち向か
い、「納得できた110枚
目を出品しました」。

問の関根一秀教諭(毎日
書道展審査会員)は「大
会に出品されるものは臨
書が多く、力量が問われ
る難しい漢字仮名交じり
の書・創作部門に挑ん
だ」と解説。大会本部は
「筆を握りはじめたの
は小1から」。中学生の
頃、人の心や感情も反映
する書の楽しさ、面白さ
を実感した。「墨の濃淡
や墨量、筆のリズムによ

求、潤滑の変化など余白
を美しく工夫した作品」
と講評した。

「緻密な構成、線性の追
って生み出される渴筆の
輝き、書は平面芸術であ
りながらも線が浮き出て
見える、その立体感が魅
力的」と話す。

4世紀の中国の書家で
書聖と称される王羲之の
名高い行書「蘭亭序」全
文(324字)を今夏3
回も臨書。「書の芸術性
を確たるものに押し上げ
た王羲之を基本に古典を
もっともって研究した
い」と目を輝かせる。関
根教諭は「筆の線や字形
にわくわくし、書道の奥
深さに挑んでいる姿を見
ると本当に書道が好き
な生徒なんだと思う」と成
長を励ます。



おおたけ・ももか 1997年生まれ。千葉県野田市立三川中学から
県立岩槻高校に入学し、現在、同高書道部副部長。2015年「書の甲
子園」第23回国際高校生選抜書展秀作賞など受賞。県の依頼で「県議会
だより」8月8日付142号の題字を揮毫(きぎょう)した。

同高国際文化科で外国
語や異文化も学ぶ。「将
来は書道の教師になり、
語学力を生かし書道を世
界にもっと発信したい」
と夢を抱いている。

【栗原一郎】